

たわわ



地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2007年12月28日

83号

NPO法人「地域で生きる障害者を支える会」

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

3Kなんて、言わないで...

地域福祉社会に人材を！



イルミネーションが、きらきらと歳末をアピールしています。

今年は、風邪が流行っていますが、皆様、お変わりありませんか？

このところ巷の景気の事が気にかかります。景気が落ち込み、求人が減れば、少しは、福祉へも人がくるのではないかと...。我ながら、少しはしたくないですね。

とはいえ、ほんとに地域福祉の仲間たちが、よるとさわると人手が足りない話ばかりです。一方、定職の持てない人があふれている。ワーキング・プアーの問題も深刻です。なんだかへんです。

* * *

先日、福祉系に力を入れている大学を訪ねました。いまさらと思われる方もあるでしょうが、福祉関係に就職する人は、30%あまりにすぎません。「これからは、福祉が大切だ、これからの福祉社会の担い手を育てる」という事で作った大学にちがいないのです。

たとえばの話ですが、水産大学を出て花屋になったなどというのとは、少し違うのではないかと思います。もっと真剣に地域福祉に人材を送り込んでほしいものです。

福祉とは、人間を相手の仕事です。ちゃんとした理論の裏付けも必要ですしそれを実現する温かい心も必要です。一人ひとりの違いに寄り添い理解する努力もできなければ、大なり小なりプランなど立てられませんし、日々の実践などできません。仕事を語るとき、3Kなどという屈辱的な言葉を許してはいけないのではないのでしょうか。

かつて、作業所を運営していた頃、補助金がたりなくて職員を集める事もできずに困っていたときがありました。そんな時、安月給ながらも職員たちは、日々張り詰めて障害者の活動をまもり、親たちも、ボランティアさんも一生懸命でさええました。今ある重度障害者のデイ・プログラムは、ほとんどその頃に組み立てられたものがベースになっています。

ただ、情熱や、誠意に頼るだけでなく、必要な休息と相応の報酬が必要なのは、言うまでもありません。それが保障される社会にしたいというのが、私たちの願いです。

「サザエさん」が普通に歳を重ねたら

櫻井 徹



歳をとらない磯野一家が、もし毎年歳を重ねていったら、波平やフネの高齢化に伴う介護の問題、カツオの受験やワカメの思春期、タラちゃんのイジメ問題等々。どうしても現実に目を向けざるをえなくなり、今のような、ほのぼのとした内容にならなくなってしまうとTV制作者が考え、視聴者も、せめてアニメの世界だけでも癒されたいと考えている。

私の子供の頃、大人達は戦争を停められなかった事を悔やみ「二度と戦争をしない」と決意していた。子供達は、暗くなるまで外で泥んこになって遊んでいた。そして家族は、丸い卓袱台で輪になって食事をしていました。丁度、磯野家のように。思い返せば良い時代だったと思う。しかし、現在は違いますね。

現実の問題（生活の不安や子供の悩み）に立ち向かっているときに、サザエさんを見て癒されるだろうか。現実辛いこともあるけれど、その代わり楽しいこともたくさんあるはずで、例えば食事の時の「よつば」は、それこそとびきり楽しい。

あの底抜けに明るいサザエさんだから、みんなが悩んでいる問題にぶつかって、失敗したり笑わせたりして勇気を与えてくれるような話を見せてもらいたいと思う。サザエさんがボランティアをしている姿なんか見てみたいと思いませんか。(ネエ！よつばのサザエさん)

障害福祉の未来を考える集い

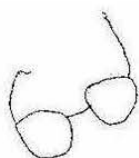
——12月7日(金):横浜公園にて開催——

毎年、12月9日の障害者週間に合わせ、横浜市地域作業所連絡会、横浜市地域活動ホーム連絡会、横浜市グループホーム連絡会の主催により、集会が行われます。

今年も、横浜で生活する障害者たちが、1600人以上も集まり、横浜市に対して自分たちの声をつたえました。

当日は、当「支える会」からも、重い障害者に代わってたちが参加しました。この季節は、気候が厳しくなかなか参加できない人も多く残念ですが、石本委員長はじめ実行委員会では、夜に何度も会議を重ね、様々な検討と準備が行なわれます。この熱意を踏まえた障害者たちの切実な願いを、ぜひ実現させてほしいものです。





めがねの声

■親知らず・歯を一本抜くのも入院で...

今年は いろいろあった年でした。

初めて 入院もしました。重い障害なのに 初めてというのも不思議ですが 小さい頃病気が重くなって点滴する時なども まだ妹が幼く母が付き添えないので家から通ってしました。

今年の春から 親知らずの歯が 時々はれて 歯医者さんに行きました。

はじめは薬で様子を見ていましたが 「またはれるようなら 抜いたほうが よいですね」といわれました。

私は 生まれつき 永久歯が何本か少ないので 取りたくなかったし はれたら また薬で... と考えていました。でも2回目にはれたときに 先生と母と3人で話して とうとう抜くことに決めました。「ただ 僕でも抜けますが...。後で 食事が取れるかどうかや 点滴の用意や 抜いた歯が何かの拍子に のどのほうに転がって どこかに入ってしまった場合にどうするかや 発作のことや たくさんの心配があるので いろいろ整った病院で抜いたほうがよいです。僕の友だちが 口腔外科部長をしている病院で抜いたらどうですか」と教えてくれました。

入院までは、とても心配でした。昼間は ちょっと忘れていましたが 夜になると とても心配になりました。グループホームや 活動ホームの人たちは みんな「だいじょうぶだよ」とずっと いいつつけてくれました。

* * *

でも 入院してよかったです。先生は上手で 後も あまりはれませんでした。

私はずっとかみ締めている事は できないので 母が 長い間 血が止まるまであごを押さえていたり、熱もでました。食べ物も やわらかいおかゆや みじん切りの調理にしてくれて たべることができました。

翌日診察のときに 先生は「もう一本 はえてますね。これは抜くなら 全身麻酔が必要だと思います」といわれました。私は とてもがっかりしました。

どうしても抜くなら 今度も おなじ先生に抜いていただきたいとおもいます。

グループホームに帰ったときに とてもほっとしました。やっと グループホームが私の家になったのかな と思います。

今年は、歯のことでゆれた一年でした。

* * *

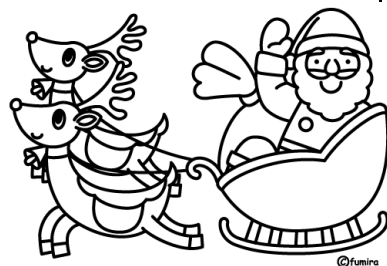
重度障害者は 歯を1本抜くのに も まわりをふくめて 大騒ぎなのです。

大原友子



よつばホーム

今月のよつばホーム



いよいよカレンダーも最後の一枚となりました。

12月に入り、よつばホーム入居者のみんなも忙しそうにしています♪

勢津子さんの12月は大忙しです。 青年クラブのクリスマス会に参加したり、しもだのクリスマス会の司会を任されたり、しもだの外出PGでクリスマスコンサートに行ったり・・・そして年賀状を毎日一生懸命書いています。

次郎さんも12月に入りマイペースで年賀状を書いています。1枚書いては職員を呼んでニコニコしながら見せてくれます♪ ♪(∩o∩)oイイ

花岡さんは毎日毎日ビーズのれん作製を頑張っています♪ 作り始めた頃は「完成はいつになることやら・・・」と思っていましたが、今や完成間近です！ 大作も年内には完成しそうです。

藤田さんは12月に入りしもだへ登所する日が週3日になりました。インフルエンザや風邪が流行っていますので、体調管理には十分気をつけたいと思います。

先日藤田さんのカンファレンスがありました。現状の医療的ケアや緊急時の対応等について話し合いました。各関係部門が協力・連携し、藤田さんを取り囲む環境が大きく良い方向へ変わっていています。 ・'☆:*.・みなさん来年も素晴らしい年でありますように:*.・'☆:*.・

第2よつばホーム

第2よつばホームに入ってくださいるヘルパーさんやバイトさんもだいぶ曜日によって固定されてきました。スタッフと入居者とのやり取りは見えても楽しい時があります。今回はそんなお話を・・・

阿部さんは、「おーい、おーい！」と誰かを呼んでいました。「何ですか？」と返事をしたスタッフに向かって笑顔で(´0´)「バカ！！」「何い？！」「エヘヘ・・・」と。こんなやりとりもあります。

山田さんは、女性の声にいらいらしてしまうこともあります、慣れているスタッフと食事や入浴などして安心した生活が送れています。

大原さんは、いろいろ話が通じるスタッフと話が盛り上がったり、近況などをメールでもやりとりするなど関係を深めているみたいです。

富岡さんは、慣れたスタッフの顔を見つめて笑っていたり、消灯前に布団に入りながら二人だけ内緒の会話をしたりと落ち着いた時間を過ごしています。 たくさんの方々に今年もお世話になりました。来年もよろしくお願いします。